

公立大学法人宮城大学の
業務の実績に関する評価結果
(平成22年度)

平成23年9月

公立大学法人宮城大学評価委員会

目次

I 評価の考え方	1
II 項目別評価	
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置	
イ 学士課程	2
ロ 大学院課程	2
(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置	
イ 入学者受入方針・入学者選抜	
(イ) 学士課程	2
(ロ) 大学院課程	2
ロ 教育課程	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	3
ハ 教育方法	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	3
ニ 成績評価	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	4
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
イ 適正な教員配置	4
ロ 教育及び教員の質の向上	4
ハ 教育環境の整備	4
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	
イ 学習支援	4
ロ 生活支援	5
ハ 就職支援	5
ニ 経済的支援	5
ホ 社会人・留学生への支援	5
2 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置	
イ 研究の方向性	5
ロ 研究水準の向上	5
ハ 研究成果の地域社会への還元	6
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
イ 研究の実施体制	6
ロ 研究費の配分	6
ハ 研究者の配置	6
ニ 研究環境の整備	6
ホ 研究活動の評価	7
ヘ 知的財産の創出	7

第2	地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	地域貢献に関する目標を達成するための措置	
	(1) 県民の高等教育機関としての役割	7
	(2) 地域社会への貢献	7
	(3) 産学官の連携	7
	(4) 大学間の連携	8
2	国際交流等に関する目標を達成するための措置	8
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	運営体制の改善に関する目標を達成するための措置	
	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築	8
	(2) 戦略的な予算等の配分	9
	(3) 学外の有識者等の登用	9
2	教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	9
3	人事の適正化に関する目標を達成するための措置	
	(1) 人事制度	9
	(2) 評価制度	9
4	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	
	(1) 事務組織の見直し	9
	(2) 事務の効率化	10
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	(1) 外部資金の獲得	10
	(2) 自己収入の確保	10
	(3) 授業料等の適切な設定	10
2	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	10
3	資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	11
第5	教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置	11
2	情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置	11
第6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
1	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	11
2	安全管理等に関する目標を達成するための措置	11
3	人権の尊重に関する目標を達成するための措置	11
Ⅲ	全体評価	12

公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果（平成22年度）

I 評価の考え方

公立大学法人宮城大学評価委員会は、公立大学法人宮城大学（以下「法人」という。）の平成22年度業務の実績について、法人が提出した業務実績報告書、法人からのヒアリング等に基づき「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

「項目別評価」は、法人の自己評価（Ⅰ～Ⅳ）の妥当性について調査・分析し、項目ごとに「S～D」の5段階で評定するとともに、法人の業務運営において評価すべき点や改善すべき点が明らかになるよう評定に当たっての意見等を示すこととした。

「全体評価」は、項目別評価の結果を踏まえた上で、教育研究の質の向上や教育研究成果の社会への還元に結びついたらと認められる取組みとともに、課題とする点や法人に対する要望等を総括的に示した。

II 項目別評価

《評定の状況》

（単位：件）

項目	S 特筆すべき進捗状況にある	A 年度計画を順調に実施している	B 年度計画をおおむね順調に実施している	C 年度計画の実施にやや遅れがある	D 年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある	年度計画なし (評定対象外)	計
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置							
1	教育に関する目標を達成するための措置						
		15	1	1		1	18
2	研究に関する目標を達成するための措置						
	1	8					9
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置							
	1	3		1			5
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置							
		5	1	2			8
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置							
		3		2			5
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置							
		1	1				2
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置							
		2		1			3
全体	2	37	3	7		1	50

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目No.1～13）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・基礎学力の底上げにおいて、学部学科により存在する到達度の差は平成23年度の課題である。
- ・事業構想学部はMBAを目指しているかと思うが、食産業と連携してスローフードビジネス等、国際的に通用するものをテーマにしたらどうか。
- ・3学部とも大震災後に最もふさわしい教育・研究体制をとれるようになっており、大いに期待できる。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.14～21）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・食産業分野における博士課程設置認可申請の取り下げがあったので、C評価もやむを得ないと考える。
- ・「研究能力養成コース」よりも「高度専門職養成コース」に力点を置く体制にすべきものと思う。

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 入学者受入方針・入学者選抜

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.22～30）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・入学志願倍率の高さや、高校側への働きかけによく取り組んでおられることは評価に値する。また就職率の高さも全国レベルと比べて突出している。
- ・留学生受け入れに関して、秋入学を進めるなど定員充足にもう少しの努力を期待する。
- ・学士課程入試は概ね順調だと思う。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目No.31～34）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としても年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・大学院課程には外国人の出願があってほしい。

ロ 教育課程

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.35～63）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・共通教育の中国語、韓国語を重視するためには、非常勤ではなく専任教員が必要。
- ・災害看護をはじめ、3学部とも専門教育を災害支援に向けて、カリキュラムの変更もあり得よう。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目No.64～76）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としても年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・実務的な分野の専攻内容であるので大学院で何を学べるのか、その吟味が注目される場所である。
- ・大学院に英語での授業も加えてほしい。

ハ 教育方法

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.77～105）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・共通教育の「英語教育」重視は必要だが、1年生のTOEIC達成目標のスコア「400～500点」は低すぎるので、徐々に上げてゆくべきと考える。海外研修にはさらに力を入れて欲しい。
- ・海外語学研修の充実は評価できる。
- ・情報処理教育における全学50人以下クラスの実現については、教員数の問題、教室の確保など、たいへんコストがかかる。50人クラスはまだ大きい今後の改善を望みたい。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目No.106～119）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としても年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・個別指導と集団指導の組み合わせによる効果的な指導スケジュールは、いずれの大学院にとっても課題になっている。

ニ 成績評価

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.120～121）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。
- ・成績評価に関する学生からの質問に対応するシステムについて、実態は何も変わっていないように見える。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目No.122～125）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 適正な教員配置（法人自己評価項目No.126～133）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・妥当な取組みがなされていると評価する。

ロ 教育及び教員の質の向上（法人自己評価項目No.134～142）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

ハ 教育環境の整備（法人自己評価項目No.143～150）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・データベース利用を教員や院生のみならず、学生にまで範囲を広げ、指導を行ったのは素晴らしいと思う。
- ・図書館の利便性向上に努めてほしい。
- ・メディアの革新が著しいなか、もう一工夫あってもよいのではないか。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

イ 学習支援（法人自己評価項目No.151～163）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・学生への対応が学部ごとに異なっている。休学，長期欠席の学生に対しては全学的なレベルで取組みを考える必要があるのではないか。

ロ 生活支援（法人自己評価項目No.164～169）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

ハ 就職支援（法人自己評価項目No.170～184）

【評定】B 年度計画をおおむね順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%以上であり，当委員会としては，年度計画をおおむね順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ホームページ上へのキャリア開発室の卒業生向け双方向サイト設置は，実施するべきと考える。更に会社にも協力してもらおうと良いのでは。
- ・インターンシップの充実，企業の説明会誘致が必要と考える。

ニ 経済的支援（法人自己評価項目No.185）

【評定】平成22年度計画なしのため評定しない。

ホ 社会人・留学生への支援（法人自己評価項目No.186～189）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

イ 研究の方向性（法人自己評価項目No.190～194）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・大学外との共同研究，奨学寄付金，受託研究などは年度計画の件数を上回っており，実績を挙げた。教育と学術的研究との調整をどう図るかが課題となる。
- ・目標の2倍以上の実績は評価すべきと思う。
- ・地域社会と世界レベルの共存が難しいが，イタリアと連携してスローフードをやるなど検討して欲しい。

ロ 研究水準の向上（法人自己評価項目No.195～199）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・研究の質の向上に向けて体制が整備されてきている印象である。研究紀要のwebへのアップロードも考えてよいのではないだろうか。
- ・論文レベルは世界標準で判断されるのが望ましい。

ハ 研究成果の地域社会への還元（法人自己評価項目No.200～205）

【評定】 S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・長期的にこのような実績を維持し、人材養成に対しても地域から高い評価が得られていることを望みたい。
- ・地域の自治体等から大学との連携に関し期待されているのが分かった。大学の得意分野が地域社会で認知されている結果だと考える。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 研究の実施体制（法人自己評価項目No.206～211）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・前年度比で受託研究費 120%、奨学寄付金 134%の実績は評価すべきと考える。
- ・科研費申請の学内予備審査はよい取組みと考える。教員全員が提出するというルールになっていないの
- ・年度計画を順調に実施している。厳しい状況のなか健闘しているのは分かる。

ロ 研究費の配分（法人自己評価項目No.212～216）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

ハ 研究者の配置（法人自己評価項目No.217～218）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

ニ 研究環境の整備（法人自己評価項目No.219～224）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・教員のFD（ファカルティ・ディベロップメント）は授業方法、学生対応に関心が集中しがちだが、効率的な運営などに関し、事務系職員との連携をいかに進めるかも課題である。

ホ 研究活動の評価（法人自己評価項目No.225）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

ヘ 知的財産の創出（法人自己評価項目No.226～230）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 県民の高等教育機関としての役割（法人自己評価項目No.231～239）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・教育改善におけるPDCAサイクルの構築については、計画を凌駕するほどの努力をされたことは評価するが、この項目内容は本学の場合やや遅れ気味であったと考える。
- ・推薦入学での地域枠のとり外しは当面、他大学との競争力を強化しなければならない本学の選択として評価する。ただし、人材の県内回収も課題になる。
- ・授業の夜間開講は学生のニーズと適合しているか、追跡調査が必要である。
- ・入試制度の説明に関して、県外高校への訪問が19校というのはまだまだ少ないと考える。

(2) 地域社会への貢献（法人自己評価項目No.240～245）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施している。Ⅳ評価が半数あるのは素晴らしいが特筆すべき事項とまでは言えない。

(3) 産学官の連携（法人自己評価項目No.246～256）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・県内市町村等との連携協定に基づく協定自治体への移動開放講座や、地域連携センターに設置した地域振興事業部の受託調査研究事業の実績を評価する。
- ・地域からの要請に積極的に貢献し、大学の重要なミッションを果たしていると思う。
- ・地元との連携を評価する。

(4) 大学間の連携（法人自己評価項目No.257～259）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・e-ラーニングへの取組み、コンソーシアムへの出講は少ないファカルティのなかで努力が要ることであるが、多くの大学がこれらの取組みを同様に進めている。

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.260～276）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・留学生への取組みは多数の大学が遅れており、そのなかで国際センターの利用者が4倍以上に増え、また多数のセミナー講習を実施したことを評価する。
- ・主催事業（高校生英語スピーチコンテスト、英語プレゼンテーションコンテスト）への参加者の多少の落ち込みは、年度の波によるものと推察する。
- ・大学間協定も交流のための有効な手段だが、まずは相手校との具体的な事業取組みが必要ではないか。実績のない協定はその後の展開が難しいことが多い。
- ・カリフォルニア大学ではデービス校でもかなり敷居が高いので、TOEFLのスコアで580点ぐらいないと受け入れてくれないのが普通。
- ・Ⅱ～Ⅳまでのばらついた自己評価結果となったが、全体としてはⅣが半数近くあり、年度計画をまずまず順調に実施しているといえる。4件のⅡ評価があるためCもやむを得ない。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長を中心とする運営体制の構築（法人自己評価項目No.277～286）

【評定】B 年度計画をおおむね順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%以上であり、当委員会としては、年度計画をおおむね順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・理事会のリーダーシップが謳われるのは昨今の常だが、大学の底力は教員、事務職員の質、意欲の高さに依存する。そのことに十分に留意する体制になっているか、検討の必要がある。
- ・教授会の回数減は重要。
- ・年度計画を概ね順調に実施しているが自己評価結果にⅡがあるためBとする。

(2) 戦略的な予算等の配分 (法人自己評価項目No.287)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

(3) 学外の有識者等の登用 (法人自己評価項目No.288～289)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.290～291)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度 (法人自己評価項目No.292～302)

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・裁量労働制と勤怠管理の在り方、テニユア・トラック制度への取組みは教員、事務職員の士気にかかわる大事であり、十分な検討を期待したい。
- ・人事委員会への学外者の任用は評価できる。

(2) 評価制度 (法人自己評価項目No.303～306)

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・一部Ⅱの自己評価があり、Ⅲの割合からみてCと判断する。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(1) 事務組織の見直し (法人自己評価項目No.307～308)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会

としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。
- ・県派遣職員の異動にともなう引継ぎ、研修が重要と考える。

(2) 事務の効率化（法人自己評価項目No.309～315）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・教務、会計等の事務処理に関する情報システムにトラブルは付き物であり、その点の維持は常に必要と考える。また、システムの改修は常に用意が必要と思われる。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(1) 外部資金の獲得（法人自己評価項目No.316～322）

【評定】 C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・一部Ⅱの自己評価があり、Ⅲの割合からみてCと判断する。

(2) 自己収入の確保（法人自己評価項目No.323～326）

【評定】 C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・一部Ⅱの自己評価があり、Ⅲの割合からみてCと判断する。

(3) 授業料等の適切な設定（法人自己評価項目No.327～330）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。
- ・震災の影響もあり、平成23年度はこの項目に大きく影響があらわれそうである。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.331～334）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・妥当な努力と評価する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.335～336）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.337～343）

【評定】B 年度計画をおおむね順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であるが、より一層の取組みを期待することから、当委員会としては、年度計画をおおむね順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。
- ・授業評価の回収率は90%を超えているのが普通だが、それに比べるとやや低い。回収率の算定において、母数となる履修登録者に授業を放棄した学生が含まれることが原因とのことであるが、的確な授業評価のためにも改善を望みたい。また、学生の履修管理にはGPA（グレード・ポイント・アベレージ）の活用が有効であるため、本格的な導入を期待したい。

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.344～351）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.352～355）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.356～360）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・平成22年度は「防災マニュアル」の配布で済んだが、震災後の対応が平成23年度から必要になる。

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.361～363）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ハラスメントは相談員へのアクセスのよさ、迅速な処理、とくに初動の機敏さが求められる。改善にあたってはそれらへの配慮を望みたい。

Ⅲ 全体評価

教育に関しては、学士課程において、英語教育、情報処理教育などの共通教育や学部専門教育の新カリキュラムを実施して2年目となるが、教育改革の効果の把握には多少時間を要すると思われる。今後の定着に向けた継続した取組みに期待したい。また、厳しい経済情勢のなか、平成21年度を上回る97.4%の高い就職率を実現したことや、教育方法の全学的な向上のため、新たに「ベストティーチャー賞」の表彰制度を設けたことなどは大いに評価できるものである。食産業研究科博士課程の新設に向けた設置認可申請は進捗が遅れがみられるが、養成する人材像などについて今後十分な見直しや検討を行い、認可申請に向けて準備を急ぐ必要がある。全体としては、年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

研究に関しては、地域の公的試験研究機関や企業との共同研究・奨学寄付金・受託研究等が46件と目標件数18件に対して2倍以上の実績を挙げたほか、国際的な学術誌（レフリード・ジャーナル）への論文掲載数の増加や、地域貢献型兼業件数、シンポジウム、講座件数などの増加がみられ、研究成果の地域社会への還元が進んでいることは大いに評価できる。知的財産の技術移転推進や技術移転機関（TLO）との連携については今後の課題であるが、全体としては、年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

地域貢献等に関しては、県内就職率の49.0%から51.9%への上昇や、公開講座等の開催数の37件から42件への増加、県内自治体との地域連携協定数の3件から4件への増加など具体的成果がみられた。大学間の連携において、カリフォルニア大学、キングモンクット大学など海外大学との学術交流に進展がみられなかったことは今後の課題であるが、総じて評価できる取組みが多く、年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

業務運営の改善等に関しては、人事の適正化において、教員採用時に外部者の意見を取り入れていることや、プロパー職員の積極的な採用などが評価できる。今後も理事長を中心とした運営体制のもと、教員及び事務職員の質や意欲の向上に資するさらなる取組みに期待する。全体としては、年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

財務内容の改善に関しては、外部資金獲得のインセンティブ措置や科学研究費補助金の申請にあた

り予備審査を試行するなどの工夫により、科学研究費補助金の教員申請率が90.6%から93.7%に上昇し、教員中の獲得者率も17.8%から23.6%に上昇するなど一定の成果がみられたが、景気低迷に伴う企業等からの受託研究費の減少の影響もあり、残念ながら外部資金獲得額は目標を下回っている。今後、景気悪化に伴う企業からの受託研究・奨学寄付金研究等の更なる停滞も予想されることから、外部資金獲得に向けて一層の取組みを期待するが、効率的な予算配分及び執行により、人件費、物件費、管理費等の経費削減に努めていると認められることなどから、年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

自己点検・評価、情報提供に関しては、規程集、予算、組織、研究費情報及び各種議事録を公開しているほか、教員人事について選考過程と選考結果を学内公表するなど、積極的な情報公開を行っている。ホームページの学外からのアクセス向上と知名度の上昇にさらなる努力を期待するが、内外に対して透明性の高い運営を行っていることと評価できることから、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

その他業務運営に関しては、教員のハラスメントに関する懲戒処分が1件発生したことは、大変残念ではあるが、厳正・迅速な対応がみられた。より一層の人権侵害防止に対する取組みを期待する。また、東日本大震災の経験を踏まえた防災マニュアルの作成、地域防災における大学の役割を明確にするためのマスタープラン策定などを進め、定期的な研修・訓練を行うなど危機対策に万全を期されたい。全体としては、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

法人による自己評価結果については、法人自己評価354項目中341項目が「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」とされている（平成22年度計画なし等により評価を行わなかった9項目を除く。）。

法人化2年目となる平成22年度も、県民の期待に応え、卓越した教育研究拠点となるため、理事長及び理事会を軸とした運営体制のもと、自主的・自律的で効果的・効率的な運営に向けた年度計画の着実な推進が認められる。

当委員会としては、項目別評価の結果を踏まえ、平成22年度について、全体として年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

なお、平成23年度以降においても、教育研究の質を高め、創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成し、その成果を広く社会に還元することにより、地域の産業及び社会の発展に寄与するため、中期目標の実現に向けて教職員が一丸となって教育研究、地域貢献などに積極的に取り組まれることを期待する。特に東日本大震災を経験した今、本学の活躍がますます期待される状況にあると思われることから、被災地の切実な要望に日ごろの教育研究成果をもって応え、その存在意義を高めるとともに、復興に向けての大きな力になることを期待するものである。